

# 〈腰折れ文〉十四、

渡邊澄子（会員）

私にとつて、前回（十三）を書いた以後の最大事件は翁長知事の急逝だった。購読している『琉球新報』の毎週土曜日掲載の佐藤優の「ウチナー評論」は愛読欄だが、八月四日の「沖繩人の矜持―翁長は知事選出馬を」には、翁長知事が、南北・米朝首脳会談をはじめとして国際情勢に変化の見られる現況下で、二〇年以上も前の決定による辺野古基地建设は見直されるべきであるのに、それを推し進める政府の姿勢は、「平和を求め大きな流れからも取り残されている」と、沖繩に対する構造的差別の是正を言葉鋭く政府に迫ったらしいことが書かれていた。「イデオロギーではなくアイデンティティ」の信念から沖繩のために「文字通り命を差し出すつもり」の翁長氏が、健康不安を抱えていることは知っているが知事選に出馬してほしい、「全ての沖繩人の利益を代表できるのは翁長雄志しか

いない」とも。退院直後の写真で見た翁長氏はやつれて痛々しげだったが、「辺野古海域の埋め立てを強行すれば、人類共通の財産を地球上から消滅させた壮大な愚行として語り継がれるだろう」と政府批判したその顔は覇気に満ちていたので、佐藤氏に同調していたのだが、本当は大変な苦痛に耐えていらしたのだろう。周囲がもっと容体に留意すべきだったのでは、と思ったりしたが驚愕の急逝だった。涙がこぼれた。没後の十一日、辺野古移設反対の「県民大会」は翁長知事追悼ムードに包まれて七万人の大集会となった。

思いやり予算やオスプレイ配備の地の拡大化、高値の言い値で買う武器等々アメリカカべったりの安倍政権と真逆に沖繩県民のために命をかけた翁長知事の死を受け容れがたく、七万人の一人にはなれなかったが追悼の記帳に行った。記帳は初めての体験。私

の後に続いて入ってきたのが若いカップルだったことは私を感動させた。本も新聞も読まず、知性低落を加速させている若年層を批判してきたが、こういう若者もいたことに興奮した。

天皇退位、新天皇即位行事には憲法違反が見られる。問題視する学者はいないのか。八月十五日の終戦記念日の戦没者追悼式で天皇は、「過去を顧み、深い反省」を表明されたが、安倍首相は「加害」への「反省」もなく、「未来志向」を強調したが、彼の目指す未来とは、自衛隊を堂々の軍隊にし、莫大な借金を国民に押しつけて防衛費に多額の予算を投入し、戦争のできる国にすることなのだろうか。悲惨な沖繩戦、北朝鮮の被爆者置き去りその他原爆問題、原発被災者問題のみならず「負」の歴史は未解決のままなのに。

からの接待や多額の寄付には咄然としたが、日大のアメフトはじめのスポーツ界、議員の「生産性」発言は批判の言葉に窮する。うやむやにしてはならぬモリ・カケ問題を一表徴とするトップの欺瞞、隠蔽に続けとばかりの閣僚の暴言・失言に責任をとらずにスルー可能を知った官僚の腐敗、墮落ぶりは目に余る。「政府と自民党に広がる『差別』と『うそ』。その感染爆発に歯止めがかからない。根底に最高権力者の体質はないか」（18・8・6『東京新聞』）は穿った見方で、上が上なら下も下はまさに感染爆発だが、この一文が掲載される頃には安倍三選が決まっているだろうと思うと辛い。もう、ご退場願いたいのに。一党の領袖が全国民の長になる制度はおかしいと思う。国民の多数の意思とは反対の行政になるとしたら理不尽ではないか。西日本豪雨で甚大な被害が出た時、首相を囲んで議員宿舎の「自民亭」で賑やかに宴会がひらかれていた。猛暑の連日、料金滞納で電気を止められた六〇代女性が亡くなったというニュースに彼らは目を止めただろうか。怒りが哀しみになること多い昨今である。